

江源茂鑑

八



部	部
管	管
号	号
年	年
月	月
日	日



寄	明治廿貳年以降本校卒業生三百十八名
贈	大正七年六月八日

江源武鑑卷第八

百箇條卷

一 文武兩道ヲ專可學余ハ更不可思之心持  
 アリ。武ニ暇アル時ハ文ヲ可學文ヲ不知  
 ハ血氣ノ勇者ニ成モノ也。文ヲ學ニ心得  
 アリ。一編ニ學フ時ハ必學道ノ病ニ侵ルハ  
 モノナリ。只一句成トモ已カ心身ニ行テ  
 心三へし不行義アルトキハ。テダテヲ真學  
 ノ者ニ問テ行へし。少モ文道ニナツム事



ナカレ著スル事アレハ不學ヨリハラトリ  
ナンソ是ヲ學文ノ要トナス物也往昔ハ  
不知今御宇ニハ文ト武ヲ十二ニシテ武ヲ  
七文ヲ三ニシテ行ヘキ也武タル者ノ武  
ヲ三ニナシ文ヲ七ニスル時ハ大刑ヲ矢ハ  
ヌルキ物ニアルモノソ寔其法正クシテ心  
清白ニ仁義ノ分チ正クシテ國家ニ心ノ  
理劔ヲ以テニ六時中ニ切拂ヒ獨ヲ謹所  
專ニシテ兵ノ強弱ヲ正クシテ民ヲ惠ニハ

一 是ソ民ノ父母タルヘシ人ハ家業ノ外ニテ  
知リタルホト好キハナシトイヘ生得  
ノ家業ヲ他ニナシテ國ヲ失フ國主古今  
ニ多シ巴カ行ニヲコタリナク万物ニ著  
スル事ナク治乱共ニ不偏ノ士ヲ賞シ民  
ヲ惠ニ邪士ヲ退クルヲ國主タル身ノ要  
トスル所ナリ以テ可心得也  
一 四民其々ニ天ノ生所ナリ上天子ヨリ下  
民ノ屋ニ至ルニテ巴カ職分ヲ大方ニナシ

自然ト天罪ノアタルヲ不知ナリ災難ハ  
他ヨリ不來皆自己ヨリ出ルナリ他ノ財  
ヲ貪ル事ナカレ已カ心裏ノ如意寶珠ヲ  
トリイタ世寔ニ四海ニ充ヘキ寶ナリ已  
カ財ヲ求ルニ心得アリ實ニ已カ心裏ノ  
寶ヲトリヘヌホトノツタナキ者何ソ他  
ノ寶ヲ求ル共來ラサランヤ可以知可謹  
也  
一 浴兼ヨリ已來王家ヲト口ヘ玉ヲ事ハ別

ノ子細ナレ心一面ノ御鏡ノ塵ヲ拂ハセ  
玉ヲ事モナク只行住座卧ニ御遊乱ノ三  
ニ思召入テ主上ノ御學ヒヲ口ソカ也天  
下ノ靈氣ノ顯ル、時モ御身ノ上不正故  
トハ露計モ不思召シテ沙門或諸社ノ祝  
等ニ仰付テミタリニ祈玉ヲニ依テ其驗  
更ニナシ昔白聖主ノ御政ノ要トスル處  
ヲ知玉ヲヘキ事也此故ニユソ求ク武ヨリ  
天下ノ權ヲハ取ルナリ武トテモ能ニハアラ

ス當世ノ武タル者一人モ武トスル者ナシ  
此後ハ下民ノ内ヨリ天理ニ叶フモノ自  
ラ天下ノ權ヲトル者アルヘシ是ヲ以テモ  
當家ノ面々思合セテ國ノ政ニシコタリ  
玉ヘカラス

一當御宇ノ武ノアリサマヲ見ニ大ニ已カ  
職ヲ失ナヘリ且夕華奪ヲ好テ武具馬具  
皆是ニ隨テ勝利ノ得失ノカマイナク見  
分ノ好カラシ事ヲ思計ナリ近年ハ別テ

茶會ト有テ國主或一郡一城ノ武士モ茶  
道ニ心ヲ入テ少ノ内モ家々ノ角ニテ已  
カ心ニ叶ハセテハト思水ノ輕重古キ器  
ノ善惡ヲナシタマニモ儒道ヲ學スル人  
ト見ルモ文字言句ノ沙汰ニ氣ヲツイヤ  
シ下ノ若シヲ知ス是ヲ以テ見レハ當御  
宇ノ武士ハ町人等ニコトナラス又公家ノ  
面々ハ武家ノ權ヲ恐テ且夕ニコビラナス  
是ヲツラク見ルニ神主山伏等ニコトナ

ラス町人ハ高家ニ坐ヲ同シ同位同官ノ  
テイイフニタラス此ヲ案スルニ世ハ大キニ  
乱ニ遊シ民ノ父母タル身ノカヤウニ成  
行テハ天罪ノカシ難シ當家ノ面々武ノ  
要トスル處ヲ朝夕ニ學ヒテ天罪ヲノカル  
ヘシ天ノアタフル家業ヲ專ニ勤ナハ諸事  
不叶事ハアルヘカラス已カ職分ヲヨク勤  
ナハ此ツ信ナルヘシ誠ナル時ハ天必是  
ニクミス天ノクミスルニ至ラステ云處ナシ

日夜可勤要也

一上天子ヨリ一國一城ノ主ニ至ルニテ聖  
ナル者ノ言ト行トヲヨク知ヘキ事也心  
得アマタアリ今世ノ國主ハ風流ニアツ  
ミテイワレナク氣高シテ下民ノイトナ  
ミヲ不知故ニ民ヲ惠ノ行ヲ不知故ニ武  
門ノ七行事モ不知口惜次第イフニタラス  
サレハ延喜ノ聖主ハ四海ノ主トシテ洛  
外ノ早苗ノ節立ヌルヲエイラニアツテ

フカク時ノ過ヌルヲ痛ニ世王ヒテ  
此里ニユイスル人ノ無ヤレノ節立ニテニ早苗上ラヌハ  
カク有難御心後ノ世ニモ思知テ可<sub>レ</sub>行事也  
一 武士タラン者ハ六七歳ヨリ武タル上ノ藝  
ヲ可<sub>レ</sub>知長成ニ隨テ巳ト誠ニ入ヤウニス  
ヘキ事也幼少ヨリ染スンハ眞實武ニハ  
ナリカタニ古語ニモ華中ノ鸞舌ハ不<sub>レ</sub>華  
香<sub>カ</sub>今世ヲ見ニ上下善惡トモニ。アカル  
者ヲハ是ヲホメ。ヲトロヘタルハ賢成トイ

ヘ氏是ヲソシル高家ハヲトロヘ世ヲイトヒ  
下民ハ上ニアカリ又是モ王家ヲトロヘ  
タルヨリ事初テ上下ノ品ヲ失ナヘリ吁  
日本ハ神國ナリ何ソ往昔ヨリ上下分チ  
アルニカヤウニ成行ナハ一國トテモ榮久  
スル國アルヘカラス是ヨリシテコソ上下  
利欲ニシテ巳カ成行ニ、トハナル物ソ子  
孫ノ末苗等信ノ心ヲ發シ國ノ父母共可<sub>レ</sub>  
成ナリ

一人ニ七ノ不義アリ本一ヨリ生ル一ツ心信  
ナレハ万用敷ノ形ニ順フカ如クニシテ  
行ニ悪ハナキ物ソ小善トイヘ氏積テ大  
善トナリ小悪トイヘ氏積テ大悪ト成國  
ヲ失事古今ノ流例也ヨク可思知也  
一國主タル者先三箇條ノ品アリ忠孝烈ノ  
者アラハ上下トナク是ヲ賞スヘシ心得  
アリ其身ニ應シテ禄ヲアタヘヨ如此ナル  
時ハ天下國家皆以テ三品ニ心ヲ入テ悪

ハヲノツカラ消スル物ソサレハ大勇ハ孝  
子ノ門ニ入テ尋ヨト必孝子ハ大忠大勇  
ナリトカヤヨク可知之  
一兵ノ頭トセシ者ヲハ嫉妬邪欲ノ四ヲヨク  
タスヘシ頭タル者一モ不義ノ行アレハ  
其下大ニ嫉妬邪欲ノ士ト成物ソ心得ヘシ  
誠エラフヘキハ甚頭トスルモノニアリ兵  
ノ頭ヲエラフニ舊功新參ノ例ヲ不可引  
今世多ハ已カ心ノ合ト不合トニ任ス誠



イニシムヘシ此ヨリシテソノ國ノ政ハ失物  
ナリ  
一佛神ヲ祈ニ心得アリ毛頭モ私欲ノ心ヲ  
不持平等ニ誠ノ心ヲ磨キテ祈ヘシ神ハ  
心ニ如向自巳ノ寶珠ヲミカケハ人ノ天ノ  
一内不至トイフ事ナシ神道ノ事ハ筆毛ニ  
不及巳ト信ヲ以テ可知之事誠内アレハ  
知ルニ遠カラス  
一右ニ云カ如ク佛神ハ誠ヲ以テ食トシ天

子ハ四海ノ治平ヲ以テ食トシ大夫ハ政  
要ヲ正クスルヲ食スト此等ノ事ハ四書  
五經等ニ委アレハ武ノ暇ニ是ヲ見ルヘシ  
相カニヘテ書ニナツム事ナカレ信ニ聖  
教ハ文字言句ニナシト云ハ心傳傳法ノ  
傳受ナリ秘シテ是ヲ見ヘシ

一主將タル者ハ形ナキニ勝ヲ以テ要トス  
寔ニ形ニヨツテ利ヲ得ント思ハ愚ナリ  
先祖十四代時信ノ軍哥ニ 至リエテ見

レハ形モナカリケリ形ナキコソ形成ケル  
誠形ナキ時ハ天下一致ニシテ大地ニ足ラ  
フ三ト、又、静夫ニ頭ヲサ、ケンカ至リ難  
キハケニ此サカイナリ可學可知之ヲ  
一國ノ政一人トシテ計ヘカラス長臣頭人  
ニ評義ヲ請ヘシタトヒ吾智臣ノ智ニ十  
倍ストイヘ氏尚評義ヲ請ヘシ心得數多  
アリ評義ヲ請ル時ハ臣下頭人ノ智ノ淺  
深ヲ知ル是一ツ。評義ノ上見聞ノ内ニ吾

智ノ分際ヲ思クテフルニ利アリ是ニ評義  
ハ悪ヲ去リ善ヲアクル物ナレハ得多是三  
他國ト争時頭タル者下カ下ニ至ルニテ  
一致ニシテ乱事ナレ是四臣下頭人ノ内  
タカヒニ疑ノ心ヲ不發是五國主ニ邪行  
ナキノヨシヲ下民ニテ傳聞テヲノツカ  
ラ上ノ清メルヲ耻テ下民ノ邪モ直ニ成  
事アリ是六如此ナレハ万事ニ付自ラノ  
行ニ邪ナレ是七近習ノ者ニ片言ノウツ

夕へナレ是ハ右ハノ法ノ上ニ細行ハ不  
及言也

一右ハノ内他國ト争時軍ノ行ニ依テ密スル  
事モアルトモ右ノ頭人評定人ニカクス  
事ナシバカ手足ノ怪ヲウタカウホトニ  
成テハ軍ニ勝事ナシ平常モシカ也常ニ  
世ノ乱ニ事ヲ不<sub>ス</sub>忘<sub>ハス</sub>武具等ヲ夕ニナムヘシ  
但政法多時ハ下民クルシム物也古人モ  
小魚ヲニルノ夕トヘヲヒク可<sub>キ</sub>心得也

一思案ハ乾坤ニ通ス併深ク思カヘス事アル  
ヘカラス是ハ自鏡ノ暗キ故也自鏡ヲ磨  
クニヒマナカレ<sub>レ</sub>万卷ノ書ヲチニスルト  
イヘ<sub>レ</sub>心鏡ヲ磨クヨリ外ナシ常ニ心ヲ  
イタツラニスル時ハ明鏡ハクモリタルト  
知ヘ<sub>レ</sub>可<sub>キ</sub>勅ノ要也

一寸善トテモ善事ヲハ不<sub>ス</sub>越<sub>ス</sub>時可<sub>キ</sub>賞<sub>ス</sub>之<sub>ノ</sub>惡ヲ  
ハ時ヲ延テ行ヘ得<sub>ル</sub>アマタアリ自ラノ非  
ヲ改ムルノ得<sub>ル</sub>アリ自ラノイカリヲ<sub>レ</sub>シツ

ムル故ニ失ナレ諸人慈悲ノ思ヒヲナレ  
得大ニアリ尚心得アリ惡ヲ行フニ六十ニ  
レテ其二三ニレテ行ヘカヤウナレハ諸  
人ミツカラノ非ヲ知テ善ニ移ルモノ也  
一 已邪欲ニシテ無智短支ナラハ何ソ臣等  
正カラニヤ已武ノ法ニ一ツトシテヲコタ  
リナク文ト武ニテツシ余ノクワサラ退  
テハ知ル所ノ國知ル所ノ天下下カ下ニ  
至ルニテ不招ニ來リ仁義ノ勇士國ニア

一 爾ヘシ可心得也  
一 寺社等ニ過分ノ所領ヲヨスヘカラス心得  
アマタアリ誠日本ハ神國ナレハ寸地モ  
神土ニアラサル所ハナレ國民豊樂ニシ  
テ實ノ春ベニアソフヲコソ神ハ悦ヒ至  
フヘキ也百貫以上ヲ不可過如何トイフ  
二 寺領社領多時ハ出家社家ノ輩私欲ニ  
成行吾職ヲ油斷ニ大キニ國ノ害ニ成事  
古來ヨリ多シ山門南都ヲ思合ヘキニヤ

尚心得アリ

一今世ノ公家ノ面々ニ在京ノ時モ深以テ  
參會不用ニ候有職ナトノ事ヲ聞見セシ  
モ不入義カ當御宇ノ公卿三十不義ノ人  
多ノ真實ニ王家ノ法ヲ知リ至フ人一人  
モナシト覺スル也哥道ナトノ義ハ武ノ  
中ニモ公家ニイヤマシ又ル人多殊當家  
ノ庶流京極高詮ナトハ武ノ法ニツイテ  
每度天下ニ譽ヲトリ哥道ハ其世ニナラ

へル公家ナシト傳テ家ノ日記ニハアルツ  
四百余歳ノ今ニ至テ公家ノ法ハ大キニ  
乱ル寂昔日万里小路藤房卿ナトノヤウ  
ナル人アレト今世ニハニタル人モナシ朱  
ニ近ケハ赤ク成ト云下民ノ夕トヘモ誠ニ  
サニコソ覺テアリ徳アラハ友ニハ不可  
寄事ナシモ若キ當家ノ面々ニ諫メ置ク  
事ナレハ他門ノ人ニ聞スヘキニモナシ  
可心得知也

一合戰ノ時大軍ヲ不可好小勢七百万ノ軍  
士ニ勝ハ古今ノ流例也常ニ諸士ノ嫉妬  
邪欲等ヲ正シ清白ノ士ヲ扶持セハ誠一  
人千人ノ持タルヘシ清白ノ士何ソ野伏  
如キノ今世ノ士ニ命ヲ争ニハ何ソ勝サ  
ラニヤ此ノ行ノ義ハ楠カ傳法書ニ多シ五  
百ニ不足兵ヲ以テ東國ノ万騎ヲハ巴カ  
手足ヲアツカフ如クニ行ヒシソカニ當  
家ノ引矢ノ終ヲ專ニ軍法ヲ十世ハ元祖

佐々木大明神ヨリ大余代ノ今ニ至ルニテ  
合戰ノ度毎ニ終ヲ失フ軍ハナキ也取軍  
ノ先ヲ馳スル事万兵ニ拔出テ名ヲ未代  
ニ顯ス事ハ家ニ生シ自ラ其器ニ當ル所  
也此段筆毛ニ不及口傳アリ  
明德ノ乱ヨリ應仁年中ニテ十一年間合  
戰シテ國々ノ大名山名細川カ兩家ニ組  
シテ面々分國ニ引籠テ公方ノ下知ニ不  
隨今ニ至テ公方ヲ尊敬シ奉ル國主ナシ

是ヲ以テ思ヘ八十箇年ヲヘス公方ヲ掠メ  
ヲウシヤクノ家ヨリ天下ヲ乱ス者出來  
ランソノアイカニヘテ當家ノ面々亂世ニ  
ナラツテ不忠ノ行ヲナスヘカラス保元  
ヨリ已來當家ヨリ天下ニ加シ合事數度  
ナリ廷士ノ者有テ公方ヲ失フ者アラハ  
御連枝ノ内ヲ取立ヨ殊當家十有五代ノ  
家嫡氏頼ヨリ今義實ニ至ルニテ數代公  
方ノ連枝ニツラナレハ一放ナラサル事

也時ノ公方ニ連枝ナクニハ鎌倉ノ例ニ  
任テ親王ヲ守立奉テ時ノ將軍トナセア  
イカニヘテ已一身世ニ立ン事ヲ思ヒ天下  
ニ心ヲカケ惡逆ノ振舞ヲナシ末代ニテ  
ノ惡名ヲ流ス事ナカレ中ニモ朝家ノ御  
事ヲ專ニ可奉敬誠秋津洲ノ尊主ヲヤ天  
罪ヲ恐レハ何ソ朝家ヲ崇メサルヘキ尚  
自ラノ誠ヲ磨テ可謹  
一勇ト臆トノニハ國主タル者不知ハアル

一へカラス是ヲ知ルニ數多ノ心持アリ生  
得ノ勇士ハ稀成物ソ又生得ノ臆病ハ  
正成ナトモ治スルニ藥ナシト云キ先考  
江源院殿常ニノ王ヒシモ是也下民ノ臆  
ハ不及云士タル者ノ臆病ハ生得ニ誠ノ  
ナキ者必臆ナル物ソ是ヲ治セントスル  
ニハ仁義ノ道ヲ學得サスヘシトニシテ  
四五ハ勇ニナリトニソ誠ニ義理ヲ知子  
ハコソツタナキ惡名ヲハナカスト見ヘ

タリ若兵ノ臆ハ三度ニテ免ス事最先達  
ノ云ヲキシ事也強將下弱兵ナキト云事  
アレハ只將ノタシナニ專スヘシ  
一乱世ニ當テ兵ヲツカフハ治國トハ大キ  
ニコトナリ心得口傳アリ衆人ヲアツム  
ルト退トニ心持アリ口傳ニアルヘシ終  
ヲ專トテ矢ヲ取ルハ當家ノ流例也先陣  
ニ利ナケレハ必愚將ハ小耻ヲカナシ三  
テ身ヲ亡ス物也大功ヲナサント思ヒナハ



小キ耻ヲカヘリニストコソ當家ノ先達  
日記ニハト、メ又シ命ヲ全シテ既ニ味方  
賜シテ十方ニ打圍シテ不遂時ハ於死一  
生ノ軍ヲ十世寂良將ノ好所也スヘテ十  
死一生ハ良將ハ常ノ軍ニモ好物ソ併ヒ  
コ口將ノ行不正全アルヘカラス命ニカ  
キリ有テ打死ニ及テモ良將ハ死所ヲ三  
セス天命ヲハカルコ、ヲ以テ良將トスニ  
シテサモナキ軍ニライテヲヤ十死一生

ハ愚將ノ及難キハ此軍也

一源平藤橘ノ武士國々ニ備テ世ニ不遂シ  
テ下民ニカタヲナラフル者今世ニ專多  
シ此外百氏ノ士ハ不及云是ヨリ後モイ  
ヨク多カラニソ相カマヘテ何ノ國主ノ  
子或孫或名高キ侍時ニ不遂シテ當家へ  
タヨリ來ラニ時ヨク扶助ヲ加ヘヨ高家  
雖多本朝武家ノ正統トスル家八十五家  
ニハ不遇カヤウノ世ニナキ家ヲトリ立

國ニヤレナフニ利數多アリ一ニハ武タル  
者何ゾタカヒニ是ヲスクワサラニヤ是  
ヲ扶助スル時國ノ士義ヲ深ク思フ者ソ  
下民ニ至ルニテアリカタキ國主ノ政法  
ニ思フ者ソニハ其者タトヒ率ギシタリ  
凡心ハ園生紅タルヘシサレハ一方大將ニ  
用ラル、者ゾタトヘハ平常ノ人ヨリ愚  
成ヤウニテモ必將ノ器ハ少ハアルモノ  
ナレハ平常ノ人ニハニシナンソ將ノ器ニ

一 アタラハ寂大切ノ事也三ニハ彼國ノ民  
先祖普代ノ思ヒヲナシ其國ヲカス時  
多ハ軍ノ行ト成者ソ此外無量ノ利アリ  
四ニハ一家ヲ相續スレハ天必其感應アリ  
五ニハ今度當家ニ扶助スル丹波ノ久下  
長澤ノ兩家先年丹波へ發向スルノ時先  
ニ云ガ如ク國人大キニ當家ヘタヨリ來ル  
故ニ兵ヲ一人モ不損レテ利ヲエテシケリ  
ヨク古ノ家ヲ扶助セヨ武タラニ身ノ

世ニアランホトノ役タリ少モ當家ヲ望  
テ來ル者下民ト云凡不捨皆以テ可扶助  
ナリ  
一右曰高家名高侍ナトノ口ウクシタルヲ  
國ニヲク時必友ノ内ニテイナム事アリ  
元來愚ナル故ニコソ解ハ成果又ル人ヨ  
トテ少々若キ兵ノ内ニテハ云物ソ是ヲ  
姦好ノ者ハ事ニ事ヲ添テ云立テ其者ヲ  
擯スル事アリヨク心ヲ入此旨ヲ可覺也

一兵頭トスル者ヲハ常ニ近付テ其機ノ清  
濁ト長短ヲ試ムヘシ若言ト行ニ邪成事  
アラハ閑所ニ近付テ禁メノ詞ヲ加ヘシ  
人前ニシテ不可謂利ヲモ人前ニテ云時  
ハ必理モ非ト請ル物ソ國主タルモノト  
言ヲ以テ兵ノ恨ヲウクル事ハ盲將ノワ  
サ也口惜次第不可勝計  
一仁義之真似ヲスル者アリ勇者之真似ヲ  
スル者アリ今時ノ兵ニ甚多者也自己ノ

鏡ヲ磨キ是ヲ見分クヘシ言ト行トノ合  
一 十不<sup>北</sup>合ニテヨク知ル、者也傳曰自巳好<sup>ヨク</sup>凶<sup>キ</sup>  
ノニツヲ退テ可知<sup>ル</sup>也  
一 邪欲ノ士ヲ以テ利ヲ得ル事アリ邪ハ邪  
ヲ以テツカフニ心持<sup>キ</sup>アリ生得<sup>キ</sup>ニ邪成モ  
ナク亦直成モナク今世ノ濁世ニナレテ  
風流ヲ專トナス物ナリ將タル者仁義ノ  
行ヲ以テ彼等カ胸中ヲサトシテツカハン  
ニイト可<sup>キ</sup>安事也武將<sup>キ</sup>タラン者ハ意ヲ万<sup>シ</sup>

別ニレテ下園ノ誠ニカヘルヘシ信ヨリ万  
一 別ニナクンハ士ノ司トハナラシ累代ノ  
跡ヲ知ルニテニテハ時ニ逢タル町人十  
トノ金玉ヲ子ニユツリ其子此金玉ヲウ  
ケ生レ付タル物ト計思ヒ親ノ金玉ヲタ  
クハヘタル心行ヲハ少モサトセスレテ親  
ノ功ヲツイヤスカ故ニ巳下生ノ内モ財  
ヲ持エズレテ身ヲ失フ也當<sup>キ</sup>御宇先祖ヨ  
リ國郡ヲ請テ武タル道ヲ不知アルカニ、

ナル國主ハ皆以テ右ニ云町人ニユトナラ  
ス何ゾ武タル者下民ノ心行ト同世ンヤ  
誠口惜次第ナリ此等ノ司ハ亂世ニ至テ  
イカンカ万士ヲツカヒ百敵ニ勝ヘケンヤ  
父祖ノ武功ヲ失ヒ國政ニヲユタリ國家  
ヲ失事ノ甚多ハ今世ノ國主ニアリ思之  
心行ニヲコタリ不可給

一今世ノ上下ノ有様ヲ見ニタニク儒道ニ  
入テ三綱五常ノ法ヲ學フ者アリ共皆文

字言句ニカ、ハリテ一句モ已カ身ニ行ニト  
スル者ナレ又佛教ヲキク者モ或ハ方便  
ノ説ニ心ヲクルレメ或ハ空見ニ墮テ法  
ノ真理ヲ不弁知識トイヘ用實ニ佛ノ真  
理ニ似ルモナレ万事ハ皆未ノ世ノ濁ル  
ナラヒトテ世ノ翫ト成テ正理ヲ失フコ  
ソ悲シケレ思之當家ノ面々仁義ノ二勇  
ヲ深クナレ一句成トモ身ニ行ヒ玉ヘ  
アイカマヘテ今世ノ風流ニ心ヲ付ヘカ

ラス  
一 當家ノ先達ノ度々ノ合戦ニ多ハ武功ヲ  
天下ニ顯シ名ヲ未代ニ殘シ玉フモ智仁  
勇ノ三徳ニ徹シ玉フ故ソカニ三徳ヲ兼  
備ヘタル人百万ノ先ヲカケンモイト安  
カルヘシ進トモ不<sub>レ</sub>死退トモ不<sub>レ</sub>生ト云ハ  
先達ノ傳至<sub>レ</sub>フ所ナリ是ニ至テユ夫ノ大  
事アリ當家度々先ヲカケ大勢ヲ乘リク  
ツシ兵ヲ一途ニツカフ勇知書ハ別書ニ

傳之信シテ以テ可見之  
一 三思<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>行九思<sub>レ</sub>一言ト云ハ昔ヨリ云傳ル  
處ナリ不<sub>レ</sub>足<sub>レ</sub>云雖然三思<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>行九思<sub>レ</sub>一言ト  
計心得タラニハ不<sub>レ</sub>學ヨリハヲトリナニツ  
カヤウノ向ヲ時ニ當テワキマヘスニハ  
返テ道ノ害ト成モノソ一息ノ間モ行ニ  
ヲコタリアルハ國家ヲ失フノ端ナリト  
知ルヘシ余ハ不<sub>レ</sub>足<sub>レ</sub>云  
一 沙汰ヲ分ル事專ラ國主ノ大事トスル處

也至テ小事成ト云トモ細ニサタヲ行ヘ  
沙汰ニ出サン者何ゾ小事ト思ハンヤ大  
堤ヲ寸虫ノ穴ヨリシテキルト云タトヘ  
モ實ナリ小事大事ト成テ國ヲ失フ事古  
今流例ナリ可謹ハ此事ナリ  
一今義實力行ヒノ如ク沙汰ヲ取行ヒ大ト  
ナク小トナク長臣奉行ニテツニ合事ヲ  
善ト不善ヲ記水火ノ如クニ分タル事ノ  
ハ記禄所ノ日記ニトメヨ子孫ノ沙汰ノ

便ニ成事アリ是一奉行一人トシテ片言  
ノ事ナク國民大小トナク沙汰ニ非ナシ  
トシラハ下民モ自ラ誠ニ成行カン是ニ  
十二人ノ奉行自ラノ行ニ不善ナシ是三  
自分ノ智ノ善不善ヲカンカヘ臣ノ智ノ  
淺深ヲ知ルノ利アリ是四此外無量ノ德  
アリ口傳可有意向事  
一臣下或頭人タル者ノ威ノ高ヲ紀スヘシ  
威ノナキモ一向ニ上ノマニ成テ國ヲ失

ノ端也又威ノ過タルハ云ニ不及國主ヲ  
アナトリ士ハ皆時ノ威ニヲソレテ善ト  
惡トノサカヒヲワキマヘス國家ヲクツ  
カヘス二年ヲ重子ス主將タラン者ハ此  
中ヲ取テ臣ヲツカヒ民ヲ養ヘ中ヲ執ト  
云ニ傳アリ先達ノ此事ヲ水火ヲ以テタ  
トヘリ誠ニ國ニ水火ナクシテ成カタシ  
過不及アルトキハ必シモ國家ヲ善ル也  
世ノナルカナ可<sub>レ</sub>知<sub>ル</sub>之<sub>ヲ</sub>

一 今世ハ大ニ危キ世ナリ右ニ云カ如ク十  
年ヲミタスレテ天下亂レナンゾアイカ  
マヘテ常ニ其國々ノ風俗家々ノ善惡ヲ  
レノヒヲツカハシ見聞セヨ亂國ノ時ニ大  
ニ利アル事多シ中ニモ當世武者執行ス  
ル待多ケレハ其器ニ應シテ扶助ヲ加ヘ  
賞シテ是ヲヲケ口傳アル事多シ張良力  
心傳ヲ受トイフトモ常ニ其國ノ政事其  
國主ノ賢不賢ヲ不知ハ利アル事力タシ



又右ニ云所ノ執行ノ士ノ内嫉ナル奸ナ  
ル多ケレハヨクく其行ノ合ト不合ト言  
ヲサトシテ可仕事ナリ今義實カナス如  
ク當國ノ山伏陰陽ノニツノ者ニ其里々  
ニシテ彼等ニ扶助ヲ加ヘ彼等ヲ國々ニ  
ツカハシ其國々ノ善行惡行其家々臣下  
頭入ノ器不器ヲ其國ニ入テ上下ニシタ  
レテ聞ニ善ハ善ニフシ惡ハ惡ニフル  
一物ナレハ知レスト云事ナレ此ヲ日記ニ

サセ毎月毎年ニ諸國ヲ廻ラセヨ併彼等  
ニ國ノ密事ヲ知スヘカラス嫉ナルハ多  
ク以テ他國ニシテ是ヲ語ル物ノ當世國  
々ヨリ忍ヲ諸國ニ出スヨレ傳聞テアリ  
右ノ山陰ノ二人ノ者ヲ以テ忍ニツカハス  
事家上ノ事ナリ山伏ニハ國主頭人下民  
ニ至ルニテ神カノ擁護ヲ頼ム者ナリ陰  
陽ニハ愚ナル國主頭人下民ハ身ノ行未  
ラシラント思ヒ不問ニ事ヲ云者ヲ此外

無量ノ利アリ尚口傳スヘシ

一 政道ノ邪魔ト成ル者ハ今世ノ出家ナリ  
常ニ眞實不亡ノ知識ヲ賞シテ佛意ノ奧  
義ヲサトスヘシ賣僧ノ知識ヲヨスヘカラス  
其僧知ノタケタルヤウニ、イスヲナセハ  
長臣以下奉行等ニ至ルマテ寔ニ智ノタ  
ケタル者ト尊敬シテ心行ヲクタク皆以  
惡趣ニ墮シテ武ノ行ヲワキニナシ大ニ  
國ノ害ト成モノ、ソ今時智士ノニ世モノ

多シ正見ノ人ハ万人ニ一人モナシ此等

ノ者ヲ見ル事已常ニ一圓ノ誠ナクシテハ

知リカタシ謹テ以テ已カ信ヲ三カクヘシ

一 子馬兵法犬追物山狩野狩步行早業等ハ

武タル者ノ好所ナレ共過スヘカラス善

事モ過スル時ハ凶ト成事先達ノ禁シム

ル所ナリ物ニ過不及アレハ皆以テ愚ト

ス仁義ノ信ニ止テ國家ノツイヘテ退ケ

士ヲ撫テ民ヲ惠ハ是實ノ國ノ父母ナルヘシ

一 居屋ヲ饒ルヘカラス堯舜ノ居宮民ノ惠  
ヤウ諸行以テ武ノ暇日ニハ書ヲ閱シ先  
聖ノ百分ガ一ナリ共心得シテ行之狂人  
ノ真似トテ大路ヲ走ラハ即狂人聖賢ノ  
真似トテ徳ヲ尊ミ道ヲ行ヘハ即聖賢ト  
古人ノ謂モ寂世リ驕リト慢ト過不及ト  
ノ持病ヲノツカラ消滅スヘシ  
一 神ヲ敬ヒ先祖ヲ祭リ家運ヲ待ヘシ神ヲ  
祭ニ異國ト異ナル事少シアリ口傳ニアリ

誠ニ神靈ノ内證ニ入テ深ク信スヘシ神  
明ト人ト同一体ノ真理ニテ謹以テ可厚  
信夫天然國ノ佛法ト震且國ノ儒道ト吾  
朝ノ神道ト一致ニシテ法ニテ法ナキ事  
ヲ知ルヘシ

一 夫吾朝ノ神道ハ明々トシテ至ラヌ所モ  
ナシ此ニ至テ何ソ心ノ自在ナラサラシ  
ヤ此ニ至テ國家ヲ治メハ日本ハサテヲ  
キ又唐土天然モ不治ト云事ナシ神道ノ

事ハ家ト白ク不<sup>ス</sup>言古例<sup>コ</sup>アルソ不<sup>ス</sup>言<sup>ハ</sup>所ニ  
眼ヲ付ヨ

右ノ二箇條ハ神内秘抄ノ旨ナレハ深ク

不<sup>ス</sup>記<sup>ス</sup>即<sup>チ</sup>當家ノ元祖正一位佐々木大明

神寬平ノ勅書ヲウケ顯シ玉フ神内秘

抄ナレハ謹テ以テ是ヲ拜見セヨ猥是

ヲ致<sup>ス</sup>一ナカレ

一當代國主タル人翫<sup>ク</sup>フ高代ノ奇物ヲ當家

ニハ國家ノタメ善<sup>シ</sup>カ不善<sup>シ</sup>カト勘<sup>カ</sup>へ不善

ニヲイテハ丁向ニ是ヲ翫<sup>ク</sup>フ事アルヘカラ

ス國主タル身トシテハ國家安全ニシテ

民ノ心ヲ養<sup>フ</sup>フヲ國主トシテノ朝夕ノ事

業ナルヘキニ百貫ノ器何ノ用ソヤ名將ハ

武具ノ高代ナルヲサヘ禁<sup>ム</sup>メテ百貫ノ太

刀ヲ十握ニナシ軍利ノ得失ヲ專<sup>ト</sup>トコソ

云<sup>レ</sup>然<sup>レ</sup>ハトテ一圓ニ世ノ翫<sup>ク</sup>フ處ノ物ヲ

捨<sup>ル</sup>事ナカレ何<sup>ソ</sup>真<sup>ノ</sup>人物ヲ奔<sup>ル</sup>事ア

ラニヤ物ヲ丁向ニ嫌<sup>フ</sup>ハ比<sup>自</sup>盲<sup>將</sup>ノ業ナリ

其<sup>レ</sup>上<sup>レ</sup>世<sup>ノ</sup>人<sup>ハ</sup>異<sup>ニ</sup>思<sup>フ</sup>ヲナシ<sup>テ</sup>治<sup>メ</sup>世<sup>ノ</sup>ノ妨<sup>ト</sup>ナ<sup>ル</sup>事<sup>ハ</sup>  
多<sup>シ</sup>余<sup>ハ</sup>以<sup>テ</sup>可<sup>ク</sup>意<sup>得</sup>次<sup>ニ</sup>國<sup>主</sup>タル者<sup>ハ</sup>器<sup>ノ</sup>  
高<sup>下</sup>ヲ好<sup>メ</sup>ハ其<sup>ノ</sup>下<sup>ノ</sup>奉<sup>行</sup>頭<sup>人</sup>ハ皆<sup>以</sup>テ  
娯<sup>ナル</sup>ハ賣<sup>人</sup>ノ如<sup>ク</sup>ニナ<sup>ル</sup>物<sup>ソ</sup>可<sup>ク</sup>心得<sup>ル</sup>  
一 遊<sup>山</sup>美<sup>色</sup>ハ皆<sup>以</sup>テ愚<sup>ヨリ</sup>生<sup>ス</sup>ル物<sup>ヲ</sup>遊<sup>ト</sup>  
ト食<sup>ト</sup>色<sup>ト</sup>ノ三<sup>ニ</sup>テ國<sup>ヲ</sup>失<sup>フ</sup>國<sup>主</sup>往<sup>昔</sup>  
ヨリ多<sup>シ</sup>禁<sup>メ</sup>ズンバ有<sup>ヘ</sup>カラス  
一 仁<sup>義</sup>ヲ愛<sup>シ</sup>民<sup>ヲ</sup>惠<sup>ミ</sup>士<sup>ヲ</sup>救<sup>ナ</sup>ハ子<sup>孫</sup>永<sup>ク</sup>  
々<sup>ト</sup>シテ昌<sup>ヘ</sup>ナンゾ一<sup>身</sup>ヲ立<sup>テ</sup>樂<sup>ム</sup>國

一 主<sup>ス</sup>エナク七<sup>ニ</sup>事<sup>古</sup>今<sup>ニ</sup>多<sup>シ</sup>當<sup>家</sup>二十  
有<sup>余</sup>代<sup>ノ</sup>今<sup>ニ</sup>至<sup>テ</sup>武<sup>威</sup>ノ甚<sup>キ</sup>モ先<sup>達</sup>ノ  
人<sup>々</sup>サソ正<sup>理</sup>ニシテ國<sup>民</sup>ヲ惠<sup>ミ</sup>玉<sup>ヒ</sup>シ  
ニト覺<sup>ス</sup>ルナリ是<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>當<sup>家</sup>ノ面<sup>々</sup>可<sup>ク</sup>  
知<sup>ル</sup>思<sup>フ</sup>事<sup>ハ</sup>  
一 者<sup>ノ</sup>頭<sup>ト</sup>セシ者<sup>ヲ</sup>ハ衆<sup>ニ</sup>モ撰<sup>ヒ</sup>ヨク問<sup>フ</sup>  
答<sup>シ</sup>テ任<sup>ヲ</sup>與<sup>フ</sup>ヘキナリ然<sup>ハ</sup>官<sup>職</sup>其<sup>ノ</sup>所<sup>ヲ</sup>  
得<sup>テ</sup>國<sup>内</sup>乱<sup>ル</sup>ヘカラス是<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>國<sup>主</sup>  
ノ樂<sup>ム</sup>所<sup>ナ</sup>リ可<sup>ク</sup>心得<sup>ル</sup>

一人ノ司ツカサタラシ者ハ人ヲ不知シラシテハ叶ヘ  
カラスサレハ樊遲トクニ問ト智チ孔コ夫フ子シ人ヲ知ル  
トノ三宣ノヒシ誠ニ國家ノ穩ツカカナラヌ時ハ  
其國ニ仁義ノ士ハナキト知ヘシ盲將モウシヤウノ  
國ハイト賤トシキ物也其國主正タシキ時ハ招オウカ  
サルニ仁義ニ勇士キ來キル物ト義士ギシヲ集アツルト  
失ウツトハ皆國主ノ心行ココロノニヨル物ナリ寔ニ  
國主タル身ノ耻ハヘキハコノサカイナリ  
一今時ノ國々ノ風俗ヲ傳聞ツタクニ其器ノヲ撰ヒラ

ム事ナクシテ時ノ愛和アイワニナツニ或ハ親シ  
キ思ヒニ依テ者ノ頭トナス是ヲ見ニ鷹トウ  
ニ魚イサヲトラセ鶴ツルニ鳥トリヲトラスルニ不ス異ト  
國主ノ甚ハアヤニルサカヒナレハ心ヲ付  
テツ、レムヘシ  
一國主タル身ノ一篇ヒトニ物ヲ好ム事ナカレ  
國主ノ好ム方ニ下シ以テ成行物ナレハヨク  
常ノ言ニ至ルニテタシナムヘシ一言モ不  
理成事ヲ云ヘカラス一言ノ非モ大ハ大

二レシタカヒ未代ニ大ニ残り永キ人口ノ  
笑ト成モノソ小ハ小ニシテ名ヲ残ヌ物  
ソ人間百年イキ又命ノ内ニ殊ニ民ノ父  
母トナル國主惡名ヲハチサラニヤ以テ  
可謹也

一上下共ニ一分ノ勤ヘキ樞要アリ公ハ人  
ヲヨク知テ舉措其所ヲ得ルヲ以テ要ト  
セハ治道モ永久ニシテ後裔ニ傳リ兆民  
モ其余澤ヲカフムルヘキナリ

一國家ノ政道ヲ專ト思フ國主ハ其身ヲ有  
セストナリ可心得

一理學ニ心ヲ費ヤス者ハ諫言美ニシテ理  
當ラスト云コトナシ  
一官祿ヲ欲スル者ハ其言カサルヘシ  
一忠孝烈ヲ思フ者ハ其言直ナリ  
一食色貨利ヲ好ム者ハ氣必吝ナリ  
一功名事業ヲ好ム者ハ氣必ヲゴルヘシ  
一此七箇條以ヨリワキマフヘシ

一 國家正タシキ時ハ天モ必カナラ擁護ス天心ニ順直トシ  
ナレハ令トセストイヘトモ法行ホウコウナハル天  
心ニ逆サカスレハ令トストイヘトモ國家必カナラス  
タル以モテヨクワキニヘ可ヤ知事チ  
一 國政正則コクセイタシキニハ民自タラシラ安ヤスシ安ヤスケレハ勇士集ユウシ  
ル國主ト勇士ト民ト一イツ致チニシテ毎日三  
度ツ、主將タラン者服用スヘシ加減配カゲン  
劑ザイニ心得アリコト  
一 三品之事サンヒンノコトアリ妻賢ナレハ夫ノ禍少ガタヒシ子

孝カウナレハ父ノ心寬ヒロナリ國豊クニユカナレハ民安  
シ是皆好イイテナス所ノ中ヨリ出ル品々チチナリ  
一 可意得コイデ  
一 今世盲將イマセウキヤウノヨキトスル士ハ戈カウト筆フデト舌シタ  
トニ違ヒシ六藝リクシ少々心得タル者ヲ世以テ  
是ヲヨシトス是等ノ者ニコソ多ハ國ノ  
害ガイトナル者アレ万人彼等カ心行ココロタテヲ似ニテ  
言コトト行カウトノ合アト不ズ合ハトヲ不ズ論ロシテニタリ  
一 二彼ヲ智チアル人ト思ヒ万藝マンギニテツシ勇智ユウチ



共ニ兼備シタル士ハ上代ニスラマレナリ  
マシテ今世ニハ千人ニ一人モアリカタ  
レ上ヲカサリテバケタル士ヲ主將タラ  
シ者ハ知スニハ不<sup>レ</sup>叶<sup>カ</sup>言<sup>フ</sup>ト行<sup>ク</sup>トノニツヲ  
以テ可<sup>レ</sup>思<sup>ハ</sup>知<sup>ル</sup>之<sup>ヲ</sup>又乱世ノ時ハ彼等ヲモス  
テス用ル行<sup>フ</sup>アリ口傳ハ  
一國家ヲ知ル者ハ漢和古今ノ盛衰ヲヨク  
知ルヘシ常<sup>ニ</sup>真<sup>ニ</sup>儒<sup>ヲ</sup>近<sup>ク</sup>付<sup>テ</sup>是ヲ聞ヘシ得<sup>ル</sup>  
多<sup>ク</sup>物<sup>ヲ</sup>サリナカラ書ニナヅンテ學<sup>ブ</sup>ノ病<sup>ニ</sup>

ニヲカサル、事ナカシ  
一 倭ト奸トノ者ヲ治スルニ法アリ仁義ノ  
一 勳士ヲ賞シ真理ノ友ヲ好メハ倭ト奸ト  
ノ者ハ信ノ日カケニ照サレテイツトナク  
消スル物ヲサリナカラ良將ハ士ヲ捨ス  
トアレハワキマヘスニハアルヘカラス吾  
智ニ迷フ事ナカレ口傳  
一 自國他國ニヨラス真儒ニ心ヲクタクキ國  
家ヲ正ント深ク志ヲ勵ス者或ハ忠孝烈

ノ屋ニ至ルニ天准之可<sub>レ</sub>行ナリ  
一建武ヨリ以來國々ノ大名ヲ見ルニ甚茶  
ノ會ニ心ヲクタクキ無益ノ數奇ニ莫太ノ  
一 金銀ヲツイヤシ自然忠功ノ者アリテモ  
賞ヲ行事ヲロソカニシ朝夕露地ニ出テ  
ハ塵ヲ拂ハセ數奇屋ニ入テハ堅柔ヲ評  
一 或ハ宇治橋ノ一二ノ間小醒井ノ水山  
上水岩洞ノ清水ノ勝劣ヲ争ヒ數奇者ノ  
善惡ニ武人行ヲ忿<sub>レ</sub>リ臣下ノ忠不忠善惡

カコトシ又予矢ニ又ルニ兩道ヲトツテ中  
ヲ行ヘ是二道ノ實ナリ  
一 國家ヲ治ニハ民ヲ本トシ豪傑ノ士ヲ撫  
テ義士ヲ舉孝弟ヲ大本トシ忠臣烈婦等  
ヲカンゼヨ然ハ不招ニ勇士モ國ニ滿永  
久ハ不及云  
一 亂國ノ時他國ニ侵<sub>レ</sub>入テ其國主ヲ討共  
其下ノ人民ヲウツ事ナカレ却テ主ニ忠  
アル者トテ賞ヲ先例ニマカセ先可<sub>レ</sub>死行

サリナカラ心得アリサトスヘシサレハ  
孟子見梁襄王出語人曰望之不似人君  
就之而不見所畏卒然問曰天惡乎定吾對  
曰定于一孰能一之對曰不嗜殺人者一之  
所以知之ナリ生死ヲ行事ヲ治乱共ニ主  
將ハ要ノ要トスル所ナリ  
一賞罰之事古語曰賞一善則衆善勸罰一惡  
則衆惡恐罰ハ大ヲ小ニシテ行ヘト古賢  
ノ傳ル處ナレハ下愚ヲハ一人ヲ罰シテ

ノ沙汰ヲハ忘却シ明テモ暮テモ繪讀ノ  
長短是不是道真ノ古新可不可或真正見  
解ヲ用ヒ拂ヒキツタル袖フリ月白風清  
境界ニ至ニ事ヲ欲シ或ハ茶ノ色香食味  
ノ厚薄ナトニ數日ヲ送り座席ノ解々ニ  
テ巴カ心ニカケ武タル道ニハ不入レテ  
イタツラニ成行ヲミレハ誠アサマシキ  
事ナリ商人ト今世ノ國主コトナル事ナ  
レ少シハ武ノ行ニイトマアル時心ヲナ

クサメンハ尤ナリ天下國家ノ主トシテハ  
賢哲英雄ノ心ヲトリ衆智ヲカリ諸侯大  
夫等ハ國郡ノ安否臣下ノ賢愚曲直我カ  
心中ノ善不善ヲワキマヘ心學雜學ノ得  
失ヲ勘ヘ是ヲ以テ日夜ノ業トスヘシ余  
ハ武ノ行ニイトマノアラハト思フヘシ  
此段尚真儒ニ問テ知ヘシ  
一 小忠トテモ不賞ト云事ナシ古語曰祿賢  
不踰時賞善不愛財ト大罪ヲ小ニシテ小

善ヲ大善ニナスハ國ノ司タル身業ト知ヘシ  
一 上下不孝ノ者ヲハ深ク禁ヘシ孔夫子曰  
五刑ノ屬三千ニシテ罪不孝ヨリ大ナルハ  
ナシ以テ禁ムヘシ不孝者ハ媿ト姪ト臆  
ト邪ト欲ト不台ト一トシテカケスアル  
者ナリイマシメズンバアルヘカラス  
一 非礼ノ者深ク禁ヘシ上タル者ハ下ノ非  
礼ヲ見テ又上ニ非礼ヲナスヘカラス非礼  
ハ國ノ失ノ根ナリト知ルヘシスキニシ人

ノ言葉ニモ道徳仁義非礼不成教訓  
正俗非礼不備分争辨訟非礼不決君臣  
上下父母兄弟翁悲礼不定禱礼祭祀供給  
鬼神非礼不誠不莊上思合スルニ付テ此  
語ヲレルレ又非礼ヲタハスニ心得ア  
タアリ巴マツ礼正カラスニハ必法ニ越  
度アラソソ以テ可心得ナリ  
一吾ナカラニ後此書ヲ武ノイトマニ見テ  
道ニ背テ諸士ニアナトラレ至ナ抑ル凡

氏神モ其ニルレハ有ニシキソ道ニ背キテ  
佛神ヲ造營ストモ少モ利勝ハナクニテ  
却テ人民ヲナヤマレテ國ヲツイヤス端  
トハ成トモ國家ノタメトハ成ニシキナリ  
可謹ノ要ナリ  
一鬼神ヲ敬ニ次第アリ王者ハ天地ヲマツ  
リ諸侯ハ封内ノ山川大夫ハ社稷士庶人  
ハ先ヲ祭ルトサレハ家礼ニモ君子作家  
必先祠堂祠堂ニ高曾祖孝四世ヲ祭ル始

祖ハ則圖丘ニ祭テ百世不遷者也尚古賢  
ノヨシトスル所ヲ知ルヘシ慎終追遠則民  
德歸厚夫祭先祭神如樹有根ト云リ樹ス  
テニ無根ハ何ソ永久ノ理アラニヤ其明  
白ナリ  
一國主トシテハ別テ文武ノ二道ヲ深ク保  
ヘシ武計ニシテハ天下國家ヲ治メント  
スルハ鳥片翼ニテ飛カ如ク國治マルヘカ  
ラス文計ナルハ車ヲ隻輪ニテヤラントスル

數入ヲ助ル例アレハヨク可心得善ヲ  
ハ小事モ時ヲ越ヘス賞スヘシ德大ニアリ  
唯罰スル事大モ小モ一命ヲ絶事ハ同シ  
國主タル者ハ諸人ヲ救フ天ノ定ル役人  
ナレハサノミ至テ武ニカケタル罰ニテナ  
クニハ乱リニ罰スヘカラス賞罰ハ他ノタ  
メニハナキソ皆以テ已カタメニシテ子孫ノ  
因果ヲ思ハ、何ソ乱ニ罰センヤ心得ヘシ  
一上天子ヨリ下ハ民屋ニ至ルニテ身ヲ後

一ヲ本トスト云事ハ古聖ノ教ル所ナレハ  
人間ノ止ル所ヲ知テ武ハ武ノ止ル所ニ  
止テ國ヲ治メハ何ソ治セサラニヤ日本  
ハ人ノ心唐土ヨリサトクシテ人ノ心善  
惡トモニ又深ル事ヤスレ仁義ノ誠ヲ以  
テ國主タル者ハ日夜ニ兆民ヲソムヘシ然  
ハ國モ自ラ豊ニシテ不望ニ四海ニ心ノ  
光満々テ必天彼ヲ立ル事明白ナリ明白  
ナラニニ隨ハサラニ國モアラシ草木モ其

根ツヨキ時ハ其葉四方ニサカヘシ何ソ人ト  
シテ草木ニダモヲトラニヤ實ノ國ハ千  
万ノ軍士ヲ以テ向フトイフ共破スル事  
カタシ尤仁義ニ敵ナシ奇哉以テ可思知  
ナリ

一國ノ司トシテハ物ヲイカル事有テ物ヲ  
スル事ナシ物ヲアイスル事有テ其物ニ  
シタカフ事ナシ天ノ道シカナリ以直養  
万物夫代天而理物者曲而不害其直コハニ

道ヲツクスカ人ノ司ナラシ身トシテ是ヲ  
不知ハアルヘカラス唯古聖ノ意味ノ深キ  
事ヲサトシテ國ヲ治メヨト思フニ有ノ三  
一國主タル者ノ天命ニ背クハ多ハ權名ニ  
奢ゾリ或ハ已カ心ニ任セ人ヲ好惡ニ賞罰ヲ  
ハ其縁ニヨツテヘタテラシ頭入トスル者  
ヲモ其器ヲエラハスタ、時ノ縁ニカス  
是皆天命ニ背ノ根ナリ古賢曰爲民立君  
所以養之也民之道有愛其力民力足則生

一 養遂生養遂則教化行而風俗美故爲民以  
民力爲重也此ワリフニ背カハ誠亡ルニ  
不遠モノナリ以テ可謹一也  
一 今御宇ニハ多毒虫ノ臣アリ以テ可知之  
聖藥ヲ服用シテ毒虫ニハマルヘカラス是  
ヲヨク知ルノ行前ニアリ口傳  
一 國主トシテ其國ノ柄ヲ一日モトラサレハ  
必亡國ニ不遠多ハ國ノ柄ヲ時ノ長臣ニ  
トラセテ其名計ノ國主多シ武ノ行ノ外



二心ヲ入ル、人多ソ邪キ婢ノ臣ハ威名ニ高ク  
リテ必國主ヲウツモノ也名利ノ關ヲ不  
去ハ邪臣何ソ不忠ナラント云事ナレ前  
軒ノクツカヘルヲ見テ後車ノ禁トスル  
事以テ可ク心得ナリ

一國ニ賢臣ヲ得ハ天ノ與ル所ト心得テ直チ  
ラツクシテ用ヘシ寔其國人未久ヲ天ノ  
教ル所ナレハ以テ深ク賞スヘシ  
一主將タル者ノ自由ヲ得ルハ賢士ヲ用ト

捨ルトトノニニアリ賢ヲ賢ト用レハ飛龍  
天ニアルカ如シ其賢士ヲ用テ其職ニ補ホ  
スル時ハ大功期セサルニ自ラナル捨ル  
時ハ制法ヲ正ストイヘトモ其功ナレ尚  
口傳

一國柱ト云臣アリ能ク此臣ヲ見定メ補ス  
ル事第一ノ要ナリ賢臣ノ柱ヲ立ラク時  
ハ國主タトイ邪路ニ入事アリテモツヨ  
ク謀言ヲスル物也古キ諫ニ逸物ノ猫ノ

アル家ニタトヘタリ逸物ノ猫ノアル屋  
ニハ家賊ノ鼠ハブラ又物ソ賢臣ノアル  
國ニハ邪士ハ制セストイヘトモ不居者  
ナリ逸物ノ賢猫ナキ國ニハ鼠士思ヒノ  
マ、ニ集リテ後ニハ國家ヲクライ破ル物  
ソ寔ワキマヘスニハアルヘカラス  
一五ノ常ナキ者ヲ深ク禁ヘシ仁義ナキ者  
何ソ主君ニ忠アラニヤ是一仁義ヲ不知  
者勝利ヲ得ル事ナシ是ニ君臣上下長幼

ノ分ヲ不知是三寶ノナキ者何ソ戰場ニ  
テ主人ノ命ニカワル事ナシ是四道ニク  
ラキ者ハ必ニ心アリ是五此外無量ノ損  
アリツヨク禁ヘキノ要ナリ五常ノナキ  
ハ禽獸ニヒトニ禽獸ノ士何ソ武ノ用ト  
スヘキコレ等ノ士ヲ飼フハ尋常諸鳥ヲ  
飼フニ不異ナラ鳥ニモヲトリナンカ鳥  
モ年來カヒ又レハ主ヲ知ル事明白ナリ右  
ノ士ハ忽主ヲ討ノ義アレハ大キニ是ヲ

イマニムヘシ  
一國主トシテ憂ル事アリ賢士ヲ不扶持ニ  
アリサレハ堯ハ舜ヲ不得ヲ以テ爲己憂  
舜不得皋陶以テ爲己憂トカヤ憂ヘキヲ  
憂ウレハウレイナシ得心スヘシ尚口傳アリ  
一人ノ司トナラン者ハ虚ニシテ理ニ止ル  
ヘシ善ヲナシテ不止ハ則是民ノ父母ト  
云ンカ古記ニ曰誓衆舎己堯也與人爲  
善舜也聞善言拜スルハ禹ナリ用人惟己

改過不吝湯也不聞又或不謀又入ハ文王  
也古今上下ノ自滅スル人ヲ見ルニ己ヲ  
思ヒ過ヌルニアリ是天ニ逆テ求久ヲハ  
カル所ナリ良將ハ己ヨク虚ニシテ理ニ  
止リ善ヲツクシテ世ノ邪法ヲ正ントスル  
國主乾坤開ケテヨリ以來一人モ逆亡シ  
タル人ハナシ可覺ノ要ナリ  
一今代ノ暗主タル人ノ行ハ智ヲカサリ善  
ヲイツワリ言行時々ニカハリ善惡トモ

二皆愛ニヒカレテ已カ不善ノ心ヲヨキ  
モノニナシ人ヲハカル天命ニ背ク所ヲ  
不知カヤウノ國主ハ天ノ罰セルニテハ  
ナク已ト世ヲ急クナルヘシヨク可覺  
事也

一居城ヲカサルヘカラス夫堯制ハ茅茨不  
戩采椽不削トカヤイワンヤ日本ノ中ニ  
三箇國ヲ知ル主トシテ莫太ノ城ヲカサ  
ツテ國家ノタメ何ノ利カアラン上タル

者屋ヲカサラハ下ハ上ヲマナフ物大ニハ  
制スルトモ何ソ治ンヤ國主トシテハ國  
家ヲ家トシ民ヲ子トシ聖賢ノ士ヲ親ト  
セハ何ソ永久ナラスト云事ナシ

一小惡小善トテモ數ツモリヌレハヲロソカ  
ニスヘカラス古記ニ曰尺蠖穿堤能漂一邑  
寸煙泄突致灰千室可覺之

一大小トナク強テ幸ヲ求ントシテ必禍ヲ  
生ル事目前タリ禍莫大於多欲富莫富於

知足欲心勝則徇物徇物則身輕而物重矣  
物重則督然無窮不喪其身不止矣故聖人  
所以爲聖人者以其無欲也ヲシナヘテ世ヲ  
長榮ナラント思ハサルハナシ然トモ逆亡  
スルハ何事ツヤ只理ニ背キ義ヲ外ニスル  
故ナリ以テ可<sub>レ</sub>覽<sub>レ</sub>之<sub>ヲ</sub>

一 忠義ノ臣ハ已カ心ニ不<sub>レ</sub>合<sub>ル</sub>物<sub>ノ</sub>直言謀諍  
スルカ故ナリ忠臣ヲ遠サクル時ニユソ  
多ハ國ヲ失フ物<sub>ノ</sub>忠義ノ臣ヲ遠サクル

ヲ見テ邪<sub>レ</sub>嬖ノ臣國ニ滿<sub>ル</sub>ト集<sub>ル</sub>物<sub>ノ</sub>大  
河ニ水ヲ入カ如<sub>シ</sub>防ニ便<sub>ナ</sub>フシテ國ハ  
他ノモノトハ成物<sub>ノ</sub>深ク可<sub>レ</sub>心得<sub>ル</sub>第一ナリ  
一 邪<sub>レ</sub>嬖ノ臣ハヨク已カ心ニ合<sub>ル</sub>物<sub>ノ</sub>國主非<sub>ラ</sub>  
行ヘハ非ニシタカニ邪<sub>レ</sub>路ニ入<sub>レ</sub>ハ則<sub>チ</sub>邪<sub>レ</sub>路  
ニ入<sub>レ</sub>依<sub>テ</sub>之<sub>ニ</sub>イヨク已カ心ニ合<sub>ル</sub>物<sub>ノ</sub>故ニ愛<sub>ス</sub>  
臣ト成<sub>ル</sub>爰ニ至<sub>テ</sub>仁義ノ臣ト犬<sub>レ</sub>猿ノ如  
クニ成<sub>ル</sub>モノソ此時多<sub>ク</sub>忠義ノ臣ニハ心  
ヲヨスル者ナク邪<sub>レ</sub>嬖ノ臣ニハ上ト一<sub>レ</sub>体

ナレハ上下トモニ彼ニクニス仍テ以テ直  
法ヲ失フ物ソ失ヨリシテ國ヲ失フニ時  
ヲウツサ、ル物ナリ禁メ可覺ノ第一ナリ  
一 衆人ニ對シテ深ク疑ハ心ヲナスヘカラス  
疑心ハ成就ノ期ナシ是ハ一ツ疑則バカ心他  
ニアツテ當所ノ利ニクラシ是ハ二ツ疑多時  
ハ衆人シタレニス是三ツ疑時ハ親族トモ  
ニ密ヲ不語是四 乾坤明々トシテ明ナシ  
トモ疑心ヲナス時ハ方寸蒙暗シ是五 此

一 外無量ノ惡事ハ皆ウタカヒヨリ生ス疑  
ト密スルトノニツ紛ル、物ソ各別ナレハ  
是ヲ可覺小人ハ皆以テ此ニツノサカヒ  
ヲワキマヘス迷物ソ古記曰 禍ハ不過  
疑以テ是ヲ可覺ナリ  
一 今代國主タル者ノモテアソフ猿樂田樂  
風流ノ興ヲ好ヘカラス是國家ヲ失フ根  
ナリ何ソ國ノ父母タル者他ニ心ヲシカハ  
天罰不可遁古記曰 終日走紅塵不識自家

一 孫知ルヘシ又如犁牛愛尾以テ可<sub>レ</sub>覺ノ  
要ナリ  
一 治國ノ時モ軍ノ法ヲ堅ク備ヘシ寔武ノ  
司トシテ武業ヲソリヤクニセハ天罰道  
難シカ量トオアツテ時ト勢ニ心カケタ  
ル士ヲ横鎡ノ兵トシテ常ニ勝負ヲ專ニ  
執行サセヨ古記ニモ千人推門一人不知  
授關是ヲ以テ可<sub>レ</sub>知之尚口傳合眼キハ  
一 國用ニ民ヲツカウトモ時ヲ勘ヘヨ是國

一 主人第一ノ要ナリ春<sub>ニ</sub>箕<sub>ノ</sub>秋<sub>ニ</sub>冬<sub>ノ</sub>内<sub>ニ</sub>何<sub>レ</sub>カ民  
ノ業ニイトミアランヲ勘ヘ又寒<sub>ニ</sub>暑<sub>ノ</sub>ヲノ  
ソキ用ヘシ古記ニ曰使民以時ト國主ハ  
民ノ父母ナレハ何ソ父母トシテ子ニイ  
ツクシミナカラニヤ可<sub>レ</sub>心得又乱世ノ時  
ハ各別ナランソ可<sub>レ</sub>知之  
一 人ノ司タラニ者一言半句ニ至ルニテ仁  
義ニアラサル出語スヘカラス人ハ一言  
以テ其長短ヲ知ル事アレハ他國ノ將ニ

アナトラル、ノ失アリ國人等下民ニ至ル  
ニテ淺ク思ヒラナスノ失アリ是ヨリ一  
切ノ失ハ出ルソ古記曰金以火試人以空言  
試ナレハ禁ヘキノ至リ也又曰君子周不  
比小人比不周ヨク君子小人ノ言行ヲ委  
ワキマウヘシ又密スル事多時ハ友ナレ水  
至テ清時ハ魚ナレトコソ古人ハイヘ唯  
言ト行トノ合不<sub>レ</sub>合忘ルヘカラス  
一國ノ司タル者ノ無學短才ニレテハ叶ヘ

カラス右イフコトク片翼ノ鳥片輪車タル  
ヘレサレハ古記ニ三代遺直無過翰墨可  
知可心得

一將タラニ身ノ一言モカサル事云ヘカラス  
古記ニ曰天鑑無私一言カサレハ方言皆  
イツハリトナル失は一ツ上タル者カサル事  
アレハ下ハ大キニカサル物ヲ是ニツ一言モ  
カサリアレハ人不實ニ思ヒ他國ヨリヨ  
カサル、失アリ是三此外無量ノ失アリ



一今、御宇ハ大ニアヤウキ時ノ右ニ云カ如ク  
十箇年ヲスキス天下大ニ乱レナニソ、情  
當公方ノ御心ヲ覺スルニ何事モ御一身  
ノエイヤウニシテ雅意ニヲワレニ、御  
出語時々ニカワリカヤウノ事ヲ數年諫  
奉リヌレトモ當座ハカリニシテカツテ  
御得心ナシ未義實御後見仕ノ内ハタトヒ  
公方ニ恨アル大名モケニハ義實ニメニ  
ジ一應ニ應ハカンニンスト三ヘタリ命カ

キリアレハ吾ナカラシ後ハ必右ニ云如ク  
十箇年ヲヘス逆心ノ者ノアルヘシアイ  
カマヘテ左ヤウノ事アラハ長子義秀舎  
弟義賢并一門ノ歴々家來ノ面々ヨ天下  
ニカヲ合テ未代ニ義者仁勇ノ名ヲトリ  
玉ヘカ一ヘテ不忠ノ軍ヲスヘカラス然リ  
トイヘトモ公義不義ノ御行アルニ是ニ  
クミスル事ナカレ三度マテ諫言ヲ加ヘ  
ヨ此ル、世ハナラヒトテ多ハ勢ノツヨキニ

付テ利ヲ外ニナス物ノ故ニ天命ニ背キ  
國家ヲ失フ物ノ利ト義トノ中ヲ執テ國  
ヲ治テ時ノ運ヲニテ三略曰義者不爲不  
仁者死智者不爲闇主謀ナリ以テ可覺也  
口傳重クアリ  
右百箇條ハ連々ニ武備ノイトマニ是ヲ  
カキ又愚息義秀未幼少ナレハ箕作ノ義  
賢後見ヲシテ國ノ政ヲ行ヘ殊吾病氣甚  
ケレハ命ノ終ニ近シナクテノ後ハ義賢ト

一門ノ面々并ニ旗頭ノ面々評義ヲテツ  
ニ合世時ノヨロシキニ付テ政ヲ行玉ヘ又  
北陸道ノ官領ノ義ハ吾ナカラシ後ハ公  
方ヘ申上先辭申ヘキナリ存ル旨多シタ  
トヘハ父官領ノ國ヲアツケ玉フ共達テ  
此職ヲ可辭ナリ心得大ニアリ此百箇條  
子孫ノタメニ愚意ヲ伸ル物ナリ古人ノ  
教ヲカリテ以テ是ヲ全ス必世ハ大ニ乱  
ニ近シヨク々當家ノ面々義勇ヲタテ玉ヘ

此書ヲ以テ吾ナカラニ後モ此書ニ引合  
事ヲ行ヒ至ヘ家此外ニモ義ノ宜カラニ事  
アラハ一門ノ面々評シ合世加ヘテ國ノ  
政ヲナシ至ヘアイカニヘテ一身ノ爲ヲ思  
ヒ一門不和ニナリ至フナ左ヤウノ折ニ  
ユソ國ハ破テ他ノ國トハナル物ソ今義  
實ニ至ルマテ北有余代事故ナク數國ヲ  
治テ天下ニ武ノ譽ヲアクル事ハヒトヘニ  
一身ノ智勇ノタケタルニモアラス唯是

佐々木大明神ノ神カニヨルカト覺ユル也  
角ノハトテ一心ニ氏神ノ助ニ合ント思フ  
ヘカラス其身信ニシテ民ヲ惠ニ義士ヲナ  
テ已私ナクハ何ソ當家ノ元祖ナレハヲウ  
ゴノ御マナシリヲメクラサレン事アラシ  
已不實ナラハ氏神モイカテカ擁護アル  
ヘキヤ中ニモ北陸道ノ官領職義實没シ  
テ後必スヘキナリ次ニ北陸道官領ス  
ル内朝倉彈正忠息左衛門佐義景長尾景

虎此者共ハ中ニモ利欲ノ深キ者ヲ實ナ  
キ者ナレハ國ノ大事ニ當テ彼等ニ事ヲ  
談スル事ナカレカヘツテ國家ノ害トハ成  
トモ助トハ成ヘカラスソ吾没去ノ後ハ  
箕作ノ義賢同義昌二人ヨリ義秀ヲ守立  
ヘキ者ハナケレトモ義賢ハ元來色欲ノ深  
キ事多ケレハアイカニヘテタレナニ候ハ  
人ハ百年生ヌ露命ヲ以テ万代ニ惡名ヲ  
殘サシ事寔口惜事成ヘシ殊ニ義賢長子

義弼ハ若輩トハイヘトモ利ト欲ニ甚深キ  
ヤウニ見ヲヨフナリ是ソ國ヲ破ラン者ト  
ハ見及ナリ父義賢深ク以テ諫ラレヨ一  
門ノ面々并長臣旗頭ノ者トモ此書ヲ吾  
ナカラシ後ノ形見共思ヒ上下テツレ合テ  
國ノ政ヲナシ玉ヘ右此書古今ヲ思ヒ合度  
々ノ合戰或國ノ善ト不善ヲ思ツ、クル物  
也寔ニ智ト仁ト勇トノ三相ヲ兼備シタ  
ル人ニナト語ルヘカラス耻シキ事也唯當

家ノ面々ヲ諫ル計ノ一卷ナリ

弘治三年己卯正月廿四日

源義實御在判

愚息修理大夫義秀殿

箕作左京大夫義賢殿

大原中務大輔高保殿

八幡山左馬頭義昌殿

一門面々中

并家礼旗頭等

江源武鑑卷第八終



